

平成21年度補正予算にともなう
農村活性化人材育成派遣支援モデル事業

田舎で働き隊！事業 企画提案書

【企画名称】

ちば九十九里の田舎で働き隊！

平成21年6月15日

特定非営利活動法人T I N A
いなか日記事業部

千葉県山武郡横芝光町
木戸8559-1
Tel.0479-84-3335
業務管理者.秋葉秀央

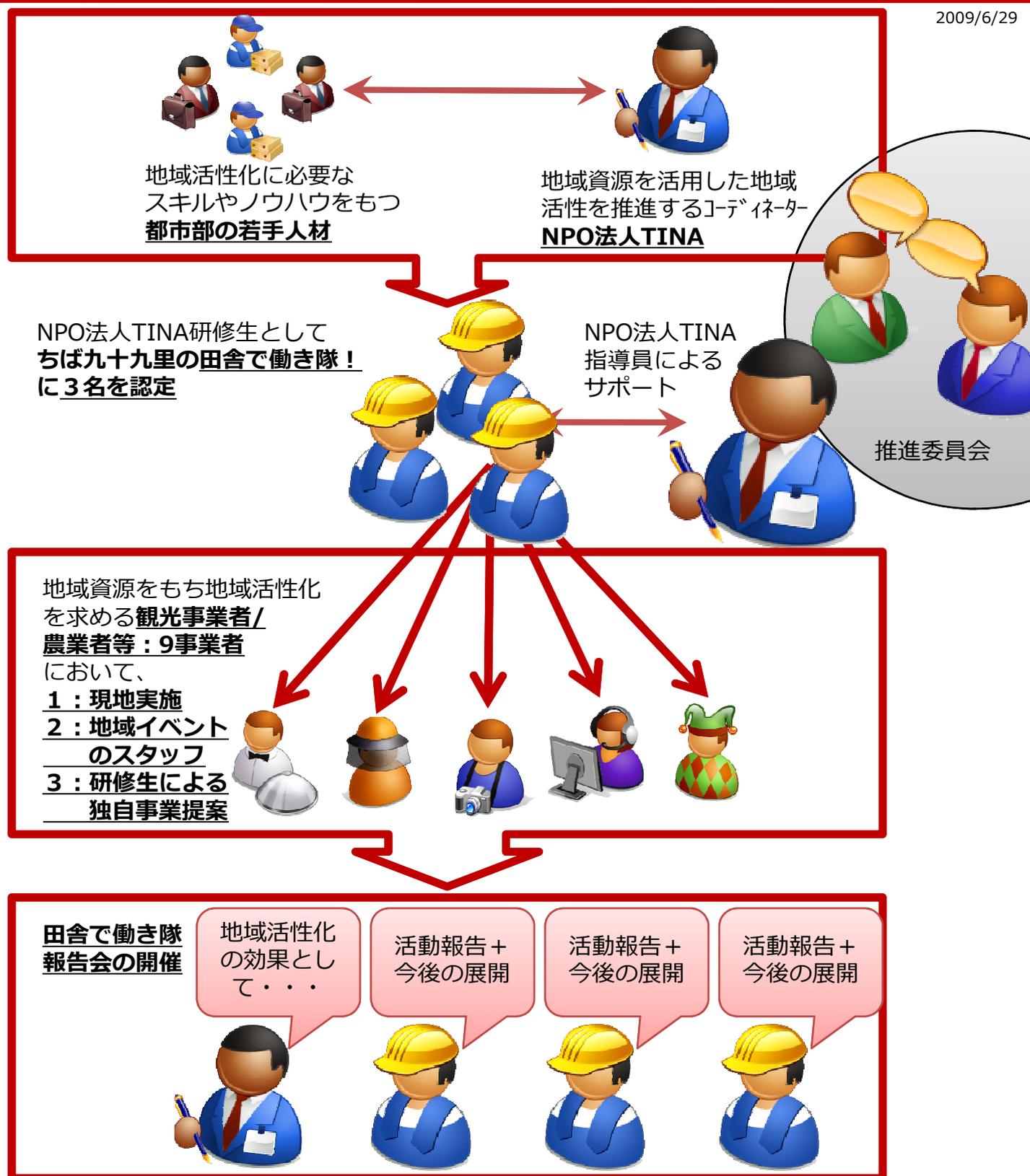
※表紙と目次を除き、10ページ

1. 事業イメージ	3
2. 実施内容	
① 事業推進会議について	4
② 農村漁村の調査及び受入地区の設定	4
③ 研修及びPR資料	5
④ 研修人材の募集及び選定	5
⑤ 研修人材と受入地区の相互調整	6
⑥ 実践研修計画	6-7
⑦ 地域活性化の効果検証	8
⑧ 事業成果の普及	8
⑨ 独自提案内容	9
3. 実施行程表	10
4. 実施体制	11
5. 研修人材の待遇	12
6. 遂行能力	13

※表紙と目次を除き、10ページ

1. 事業イメージ全体像

2009/6/29



①事業推進会議

2009/6/29

●概要

事業推進会議は、地域における農林水商工サービス業の活性化を目的とし、地域資源を活用したNPO法人TINAの事業について、地域の関係団体/企業等外部関係者が組織された協議会で、名称は「田舎日記実行委員会」である。

●構成員

横芝光町産業振興課、同商工会、同観光協会、同宿泊組合、同農業振興会、JAちばみどり、JA山武郡市、NPO法人TINAの8団体による。

●現況

横芝光町産業振興課が事務局となり、平成20年度より、毎月1回程度実施している。

②農山漁村の調査及び受入地区の設定

●概要

横芝光町及び匝瑳市・山武市の2市1町の受入対象団体及び関係団体に対して、地域における課題や問題点、実施中の事業内容、研修生等人材に求めるもの等の項目についてアンケートを実施し、地域課題や受入の有無、期待する人材等を集め、受入地区を設定する。

●受入地区の現況（今後、他業種に調査対象を広げます。）

現況	業務内容	市町村	備考/コメント
完了	葉物野菜の生産販売	横芝光町	ハウスのため、ほぼ毎日業務はある。地産地消を推進したい。
完了	ブランド肉牛の生産	横芝光町	後継者がいないため、やる気のある後継者不足とブランド浸透に悩んでいる。
完了	ブランド葱の生産	横芝光町	自身の後継者問題と、地域のネギ農家高齢化等廃業による休耕地増加が問題。
完了	食品リサイクル事業	匝瑳市	食品残さリサイクル事業の基盤強化と、養豚部門の販路拡大
完了	観光型宿泊業	横芝光町	お客様は「ただ泊まる」ことはしない。体験プランなどトンガリがほしい。
完了	地域NPO（イベント）	横芝光町	イベントの広報やマンパワーの不足が問題。
調整中	イチゴ、梨、梅、など果実系の農家3軒	横芝光町 山武市	規格外商品の活用に悩んでいる。商品化や活用方法を模索している。
調整中	観光事業（観光協会）	横芝光町	主軸の花火大会がなく、海開きなどもボランティア。何か打開策がほしい。

③研修及びPR資料

●概要

2009/6/29

研修人材に対しては、HPを中心に広く一般にPRする。詳細資料としてPDF形式で掲載する。また、A4両面カラー資料を、関連施設に設置する。

受入地区に対しては、紙媒体でのPR資料を作成し、関係団体や企業に対して、持参又は郵送にて送付する。

④研修人材の募集及び選定方法

●研修人材の募集

- HP上での募集が中心のため、インターネット上での広告掲載を実施する。
 - 検索エンジン (yahoo/google) へのアドワーズ (キーワード検索結果) 広告
 - SNS (mixi) への記事投稿
 - 関係市町村等関連する団体や企業のHP上へのハイパーリンク広告
- 1枚資料に関しては、関連施設への設置を実施する。

●選定方法

- 応募者はインターネットから、エントリーシート及び実績シートを記入し、応募する。
 - エントリー締切日より、TINAが中心に書類審査を行う。(1次審査)
 - 1次審査通過者は、都内での最終面接審査にて決定される。(最終面接)
- ※応募者が少ない場合は、1次審査を行わない場合がある。

●選定方針

エントリーシート及び実績シートをもとに、NPO法人TINAが採点し、地域における受入事業者の要望を合わせて最終的に審査する。なお、審査は非公開とする。審査及び採点の基準は以下のとおり。

項目	内容	配点
地域課題の把握	地域の解決したい課題/問題点を把握しており、それら課題/問題点を解決するための意思があること	20点
応募者のスキルやノウハウ	地域の解決したい課題/問題点を解決させるためのスキルがあること、または潜在的なスキルがあること	20点
研修の実現性	地域の解決したい課題/問題点を解決させるための設備 (PC) や、課題地域の事業に対応した設備 (自家用車) があること、またはその対策案が実現的であること	20点
応募者の将来設計	研修終了後の応募者の将来設計が明確で、地域活性化に寄与すること (地域でのCB起業や移住等) が期待できること	20点
コミュニケーション能力 (面談)	地域での生活において、報告/相談/連絡等基本的なコミュニケーションや、受入事業者との交流等も活発と思われること	10点
地域事業者の期待感	受入先となる地域事業者が、期待できる人材であること (NPO法人TINA 2点、地域の各事業者 1点)	10点

⑤研修人材と受入地区の相互調整

●概要

2009/6/29

受入事業者の全担当者とTINAによる会議を行い、受入事業者の得票を得て、審査結果を通知する。最終面談への参加(オブザーバーとしての参加)を受入事業者にお願いし、より良いマッチングに心がける。

⑥実践研修計画（研修の基本方針）

●研修生の研修に関する基本方針

実践研修では、主に3つの研修プログラムを提供する。各研修プログラムの位置づけを明確にし、最終的に研修生の移住及び地域活性化に関する起業支援へとつなげる。

研修内容 項目	実践研修		
	①現場研修	②イベントスタッフ	③研修生独自の事業提案
地域課題の把握	◎	△	-
地域課題の本質調査	◎	△	-
地域課題の解決案模索	△	◎	-
研修生のスキル ノウハウ活用	△	◎	◎
地域事業者との ネットワーク構築	△	○	○
研修生のCB支援 地域での起業支援	○	○	◎
研修生の将来設計 移住のサポート	○	○	◎

⑥実践研修計画（概要）

●概要

2009/6/29

地域の事情（時期による繁忙期の有無）があることから、研修生は3名1組となり、NPO法人TINAの研修生として、3つの研修プログラムを行う。

	いつ	どこで	なにを	目的
1 現場研修	全日程の 1/3程度 随時	農家 農業法人	農作業補助	現場の農作業を通じて、商品情報のみならず、生産者の苦労や魅力、農業法人や農家の問題点や課題の本質を得る。
		宿泊事業者	支配人補佐	現場の接客やお客様の声を感じ、お客様が求めているもの、宿泊事業者のニーズや問題点や課題の本質を得る。
		畜産農家	作業補助	現場の作業を通じて、商品情報のみならず、畜産農家の苦労や魅力、畜産農家の問題点や課題の本質を得る
	いつ	どこで	なにを	目的
2 地域の イベント スタッフ	全日程の 1/3程度	地域NPO	企画立案	地域活性化のために実施されるイベントに対して、集客という視点で企画立案に携わり、ニーズにあった企画立案
	7-10月	地域NPO	代表補佐	目的達成のために必要な営業活動や協力活動を行い、地域の事業者との交流、研修生のスキルやノウハウを活用する

地域の現状課題・問題の本質・解決に向けた模索を行い、
地域事業者とのネットワーク構築をしながら、スキルを活用！

	いつ	どこで	なにを	目的
3 研修生 独自の 事業提案	全日程の 1/3程度	---	研修生が独自 に考える企画	現場研修や既存イベントスタッフを通じて問題点や課題の解決のための事業を企画立案し、研修生の起業を支援。
	11-2月	TINA内 各事業部	TINAのリソース を活用した新 企画の実行	TINAの既存リソースを活用して、地域資源を活用した新企画・新ビジネスを実行し、研修生の独立起業を支援。

⑦地域活性化の効果検証

⑧事業成果の普及

●概要

2月末に、

受入事業者や事業推進会議などの関係各社のほか、
周辺市町村の産業/観光活性部署、商工会、観光協会、農業振興会等を一同に介し、
田舎で働き隊の研修報告会を開催する。

報告会により、効果の検証・地域への提言/提案・地域への普及を目指す。

●報告会の内容

- 1、コーディネーター（NPO法人TINA）による成果報告
例）成果報告の項目
 - ・ 地域の問題点や課題には何があるのか？
 - ・ どんな人材からの応募があるのか？
 - ・ 地域と都市部の地域活性化へのギャップはあるのか？
 - ・ 研修した人材によって、どんなことが出来たのか？
 - ・ 定量データとして、どのようにかわったのか？
 - ・ 地域は活性化した・活性化するといえるのか？
 - ・ 今後この地域はどうすべきなのか？（提案含め）など
- 2、研修生による研修報告
- 3、研修生による独自提案事業
- 4、講演
※成果報告の内容、研修生の独自提案内容に応じた
テーマに設定し、実施したいと考えています。
例）講演テーマ
 - ・ 地域活性化とコミュニティビジネス
 - ・ 企業とNPO連携
 - ・ 地域資源の掘り起こし方法など
- 5、（テーマに応じて実施や連携の可能性あり）
 - ・ 千葉県NPO活動推進室による「NPO出前出張講座」の開催
 - ・ 「千葉県地域活性化プラットフォーム事業・山武郡市」の実施報告会の共催
 - ・ 中小企業基盤整備機構による「農商工連携」の説明会/報告会の共催

※連携や共催により、より波及効果の高い、傍聴者が第一歩を踏み出しやすい
情報と仕組みと、第一歩への誘導を実施する。

⑨ 独自提案内容

● 背景

2009/6/29

平成20年度の受入事業者の調査・ヒヤリング、平成21年度の本予算時の調査・ヒヤリングによって、以下のような要望が多かった。

- ・千葉県は農業生産額2位なのに、休耕地はワースト7位。休耕地を活用したい。
- ・農業は魅力がないし、儲からない、自分の商品が買えやしない。後継者もない。
- ・生産者から産直の商品は美味しいって言われるけど、売上にはならない…。

● 要望

地域の魅力と共に、地域の商品売り込みたい。
食べてもらえれば、買ってもらえる機会は増える。
魅力ある商品を作るエリアには、後継者が増える。

● 施策

- ① 地域の魅力を体感できるイベントを開催
- ② イベント内で、地域の食材だけのBBQ（試食）を開催
- ③ 試食商品をネット等で継続的に買える仕組みづくり

● 提案内容

◆ 地域商品の産直商品を企画・開発・販促する。

- ・顧客ニーズに応じた内容量/パッケージデザイン開発
- ・販売のための写真素材/紹介記事/パンフレット作成
- ・販売促進のため、ファーマーズマーケット等への出店

◆ 商品PRや通販のためのホームページを整備する。

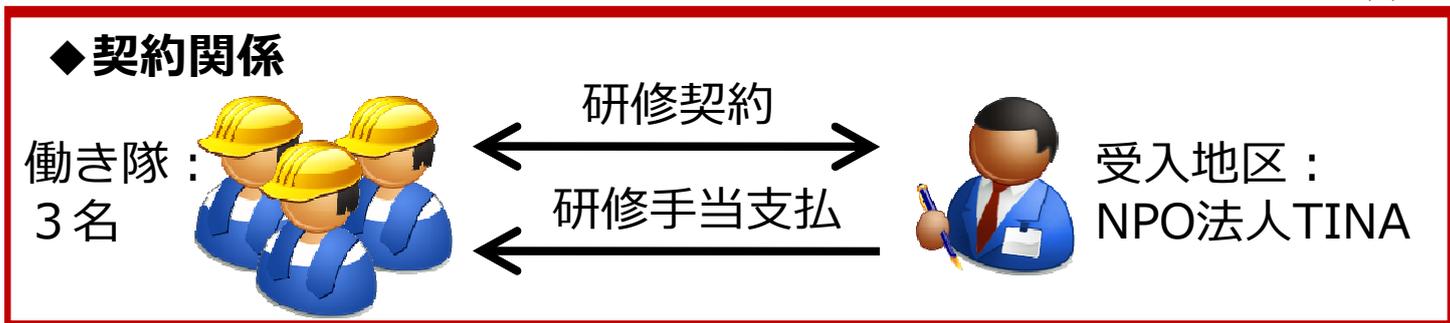
- ・田舎日記ホームページに地域商品ページ開設
- ・通販システム（PC/モバイル）の実装

3. 実施工程表

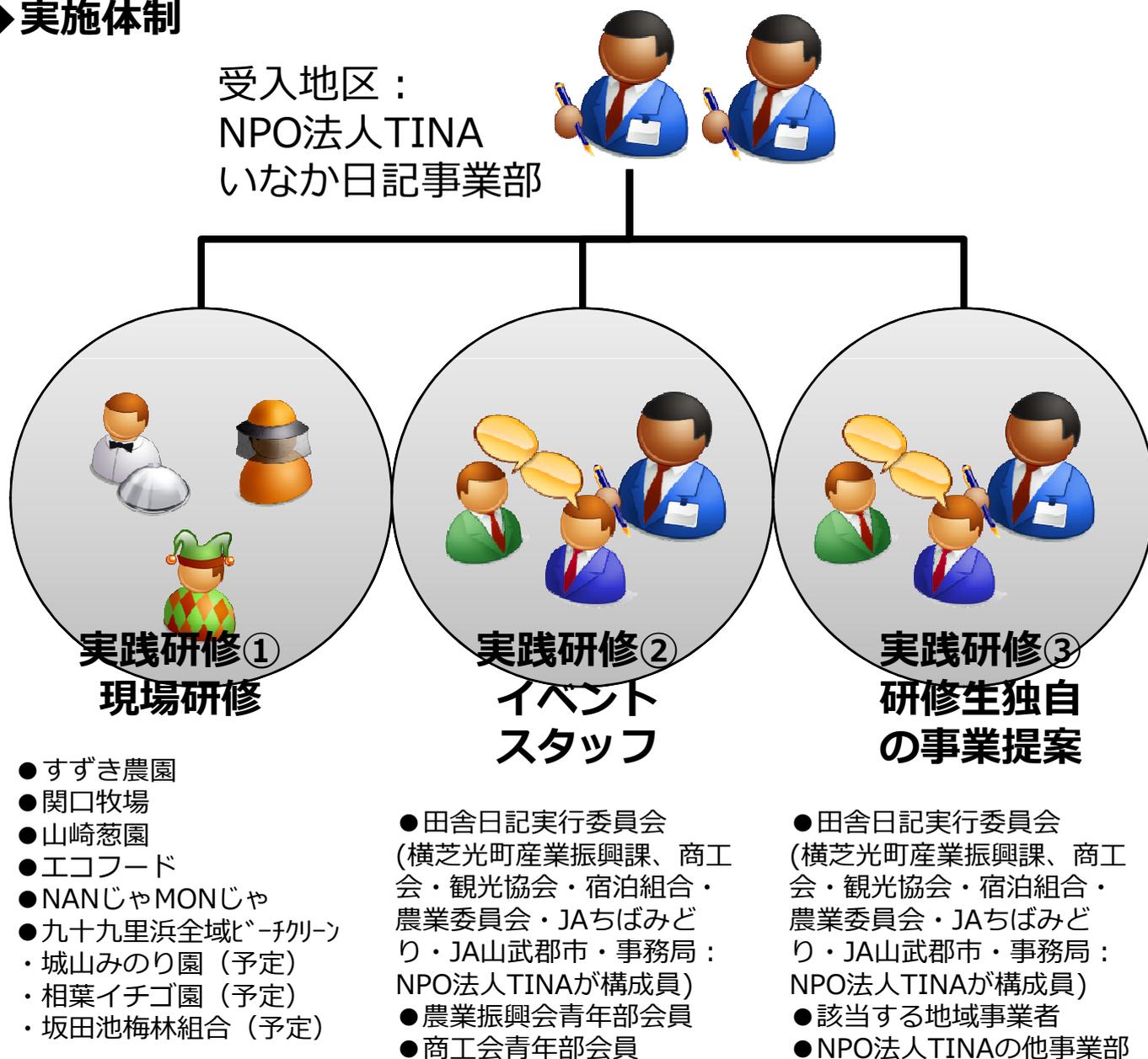
2009/6/29

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 事業推進会議									
② 農山漁村調査受 入地区設定									
③ 研修およびPR資 料									
④ 研修人材の募集 及び選定									
⑤ 研修人材と受入 地区調整									
⑥ 実践研修									
⑥-1 現場 研修									
⑥-2 イベントスタッ フ									
⑥-3 研修生独自の事 業提案									
⑦ 地域活性化検証/ 成果の普及									
⑧ 独自提案内容									

4.実施体制



◆実施体制



5. 研修人材の待遇

項目	内容	備考
研修期間	8か月	研修期間は、7月中旬～3月中旬までとする 詳細の日程は、変更する場合がある。
研修手当	14万円/月	内訳： ① 国庫補助金 7万円 ② NPO法人TINA 7万円 ※NPO法人TINA営業カレンダー準拠の場合
研修旅費	自己負担	現地までの旅費交通費や、日常の移動や出勤にかかる旅費交通費は、自己負担とする。（NPO法人TINA臨時雇用契約に基づき設定）
保険加入	加入	NPO法人TINAにより保険に加入する ※保険内容は選べません
滞在費	自己負担	滞在に必要な宿泊代やアパート代、食費については各自が自己負担する。なお、アパート等の斡旋については、推進会議に相談が可能なものとする。最悪の場合、TINAスタッフとの共同生活も検討する。
出張費	TINA負担	研修期間内の研修において、NPO法人TINAから出張命令書がある場合に限る。なお出張報告書の提出をもって、経費はTINAが負担する。
支払方法	月末×・翌10日 銀行振込	振込手数料は、研修生が負担するものとする。 前払いを希望する際は、事前に相談された場合のみ対応する。

※ 研修手当における国庫補助金残金の支給方法について

受入事業者（9事業者）での「実践研修①での現場研修（NPO法人TINAより出向形式）」において、研修生およびTINA指導員が行う、1.農作業補助 2.支配人補佐 3.労働力 の対価と、「実践研修②でのイベントスタッフ（NPO法人TINAいなか日記事業部内）」の事務局スタッフとしての労働力の対価 の2パターンを原資とする。（10ページ参照）

6. 遂行能力

NPO法人TINAでは、平成20年度（二次補正予算）において本事業を実施しました。

実施事業	実施期間	詳細
田舎で働き隊 (2次補正)	平成21年3月	研修生応募総数：70名以上 研修生受入総数：10名 研修内容： ① 5泊6日の研修で6名受入 (研修先：野菜・お米・肉牛・鶏卵・養豚・食品リサイクル・梨の各事業者) ② 1泊2日の研修で4名受入 (研修先：野菜・お米・肉牛・鶏卵・いちごを選択)

※ ニューヨークタイムズに掲載されました。(4/15:アジア版 ・ 4/16全世界版)

類似事業

実施事業	実施期間	詳細
農団テラトリコ	平成18年4月 ～ 平成21年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●首都圏の20-30代の社会人での農作業体験 ●毎年10名程度受入 内容：「農が好きの人」を対象にした、野菜作り・お米作りの協働作業、田舎日記田植えイベント・稲刈りイベントの当日スタッフ等を行う。
休耕地 ゼロミッション	平成21年5月 ～	<ul style="list-style-type: none"> ●「半農半X」を目指す都内の若者との休耕地ゼロ活動 ●本年より5名で開始 内容：横芝光町の荒廃した田んぼを初年度に復興させ、2年目はメンバーのお米を作る。3年目は地権者に戻し、農地の有効活用を広げていく。
田舎日記 田植えイベント	平成18年から 毎年1回	<ul style="list-style-type: none"> ●一般参加者向けの田植えイベントの企画運営 ●2009年は、400名以上の参加あり 内容：田植え体験を中心に、カヌー体験や乳しぼり体験など地域資源を活用した体験プログラムを構築し、ひろく一般に対して、提供している。
田舎日記 収穫祭	平成18年から 毎年1回	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民も含めた一般参加者向けの稲刈りイベントを中心とした収穫祭 ●2008年は、400名以上の参加あり 内容：稲刈り体験を中心に、地引網などのブルーーツーリズムなどの体験プログラムを構築し、地産地消を推進するBBQなども実施している。